

(大阪東南部)

- 1 所在地 奈良県生駒郡斑鳩町
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)六月～一九八二年(昭57)三月
- 3 発掘機関 法隆寺防災委員会
- 4 調査担当者 奈良国立文化財研究所・橿原考古学研究所
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 古代～近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

法隆寺では一九七八年から防災工事に伴う事前発掘調査を実施している。調査は導水管敷設位置等に限られているが、現在までにか

なりの成果が上っている。

木簡が出土したのは、

江戸初期から明治三年ま

で続いた子院正覚寺跡の

池からで、位置は西院と

東院をつなぐ参道の南側

にある聖徳会館の東口で

善住院の南隣りである。

検出した遺構はほとんど

- 近世のものであった。池は一辺二・二mの方形で深さ約一m、護岸には上段に軒丸・軒平瓦を多く用い、瓦の固定に割竹を数段重ね木杭を等間隔に打ち込む。下段は一〇cm×三〇cm大の切石や割石を用いる。木簡は三点出土した。

- 8 木簡の釈文・内容

- (1)

- (174)
- $\times 37 \times 7$
- 019

- (2) $\frac{\cdot}{\neg}$
けふ
☐

きう

- のろ

- ☐

- 水

- 217×92×8 011

- (2)は表側に漆を塗ってその上に墨書してある。墨書の下方には咒

符らしきものがかかれています。

- 9
関係文献

- 法隆寺
『法隆寺発掘調査概報Ⅰ』

一九八二年

(清田善樹)